

第1号

平成20年9月発行

長崎県離島医療圏組合
五島中央病院

患者さまへ

病院の理念
五島の地域医療に貢献し、患者様に信頼される病院をめざします。

目標

- 一、患者様中心の医療
- 二、安全な医療
- 三、質の高い医療
- 四、健全なる経営
- 五、救急医療の充実

基本方針

- 一、患者様にわかりやすい言葉で説明します。
- 二、検査や治療については患者様の同意を得て実施するように努めます。
- 三、医療水準の向上に努めます。
- 四、病診連携、保健・福祉機関との連携に努めます。

目次

- 1 院長あいさつ
- 2 検査部より
- 3 内科より

1 院長あいさつ

～五島中央病院ニュース（患者さん向け広報誌）の創刊について～
暑い夏もようやく峠を越したようです。皆様は今年の夏、体調いかがでしたでしょうか？
このたび、五島中央病院では患者さん向けの広報誌を発行することにしました。医療については国の政策・方針も色々と変化していますが、当院でもそれなりに対応しております。そこで、皆様にこんなことが変わりました、あるいは五島中央病院におられる先生の専門や特殊な診療・治療技術はこんなことですか、当院での新しい取り組みや情報をこの広報誌に紹介し、受診の参考にしてもらおうことが目的です。まず第1号は検査部と内科について紹介してもらいました。当院の理念は“五島の地域医療に貢献し、患者様に信頼される病院をめざします”です。皆様に信頼されるように職員一同さらに努力して参ります。よろしく願いいたします。

2 検査部より

当院検査部の活動内容について簡単にですが紹介したいと思います。
まず、始めに当院検査部では午前8時に採血開始を可能にするために自主的に午前7：30には出勤し検査機器の立ち上げなどを実施しています。このような活動は、午前8：30の診察開始時には既に検査結果の報告を完了し、すぐに患者様の診察を行うことを可能にするのを目的としています。また、検査部内の採血区域は数年前より、カーテンを設置し隣との境界を隔てることで患者様の個人情報保護に努めるようにしました。
次に、患者様が知らないような検査関連情報について紹介したいと思います。
今現在、検査結果の報告については診察時に医師から口頭で伝えられている患者様が大多数だと思われます。しかし、患者様が望めば当日中に報告可能な検査結果を1人につき保険点数25点（3割負担で75円）でプリントアウトし提供することが出来るようになりましたので、検査結果を受け取りたい方は担当医師に申し出て下さい。
また、患者様が興味を引かれるような検査項目も当院検査室では実施しています。例えば
肺年齢
動脈硬化
骨密度
上に挙げたような検査以外にも多数の検査を実施していますので何か聞きたいようなことがありましたら、どんな些細なことでも構わないので担当医師もしくは検査室へ問い合わせして下さい。

3 内科より

五島中央病院内科長の大場一生です。専門は消化器疾患全般で、特に①消化管内視鏡を用いた内視鏡診断・治療、②肝疾患（自己免疫性肝疾患・ウイルス性肝炎・肝癌など）の診断・治療、③超音波内視鏡を用いた胆膵疾患の診断・治療を積極的に行っております。平成20年6月に前任地の佐世保市立総合病院より赴任して参りました。最近ようやく五島の地理、五島弁が少しずつ理解できるようになってきました。

今回、広報紙「患者様へ」の刊行にあたり、当内科を紹介させていただきます。五島の中核総合病院として機能する五島中央病院は、各科において「専門性に基づく高度な医療の提供」を行い、五島の地域医療に貢献し、安全かつ質の高い医療を行うべく日々診療を行っています。当内科は呼吸器科、循環器科、消化器科、腎臓内科、血液内科、総合診療科の各専門医により構成されています。皆様より求められるより高度な専門医療を行う一方、地域性を反影したプライマリ・ケア医（一般医・家庭医）としての責も担っています。

各専門科（グループ）の紹介を順に行います。

①呼吸器科

神田哲郎院長を筆頭に、北崎健医師、河野仁寿医師により診療を行っています。

呼吸器（肺）は酸素を取り入れ炭素ガスを排出する重要な臓器です。肺炎・肺結核・肺癌・気管支喘息・肺気腫・間質性肺炎（肺胞の壁に炎症が起こる疾患）・肺線維症・サルコイドーシス・呼吸不全・睡眠時無呼吸症候群などさまざまな呼吸器疾患を診療（診断、治療）しております。本院の呼吸器科では、肺癌・呼吸器感染症・肺炎を特に得意とするスタッフで診療にあたっています。肺癌の治療においては外科との連携のもと集学的治療を行っています。感染症については病原菌の確定と抗生剤の感受性を正確に診断し、治療効果をあげています。最近再興感染症として重要な肺結核の五島列島唯一の入院病床も有り、結核制圧にも努めています。

②循環器科

深堀正美診療部長を筆頭に、福川史生医師により診療を行っています。

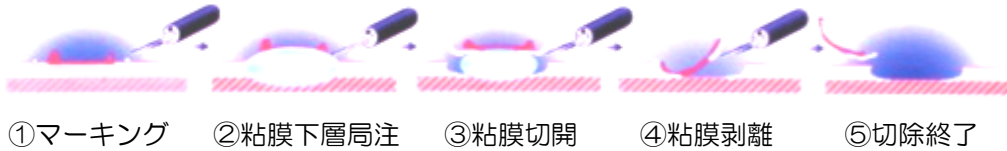
狭心症、心筋梗塞、心不全、弁膜症、心筋症、不整脈、高血圧など、心臓疾患を対象に診療（診断、治療）しています。検査は、心電図、心臓超音波検査、24時間心電図や、心臓を養う血管（冠動脈）の血管造影検査などを行います。治療としては、冠動脈の狭窄や閉塞に対する冠動脈形成術や、ペースメーカー植え込み術などが主なものです。心臓疾患は、緊急を要する場合も多く、急性心筋梗塞や急性心不全などは、24時間態勢で診療しています。

③消化器科

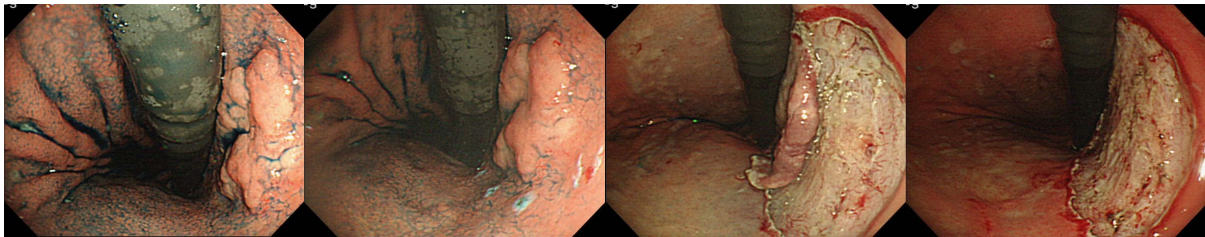
小生（大場）に加えて、吉田亮医師、森崎智仁医師により診療を行っています。小生の専門領域ですので、やや詳しく説明いたします。

食道から直腸までの全消化管および肝胆膵領域に発症するさまざまな疾患を診療（診断、治療）しています。消化管領域では消化管腫瘍の内視鏡的診断・治療、消化性潰瘍出血に対する内視鏡的止血術、食道静脈瘤に対する内視鏡的結紮術、消化器癌の化学療法、クローン病・潰瘍性大腸炎等の炎症性腸疾患の診断・治療を特に重点的に行っています。早期消化管癌に対しては内視鏡的粘膜下層剥離術(ESD)という最新の内視鏡下の一括切除術を行っています。数年前迄は外科的切除となっていた症例も特定の条件を満たした早期癌であれば、内視鏡的治療により根治が可能となります。小生も本治療が長崎に導入された際より治療を開始しており、すでに200例近くの治療を行い全国的にみても遜色ない治療成績を残しております。早期胃癌では保険認可がおり普及しつつありますが、早期食道癌および大腸癌のESDは全国でも行っている施設は少ないですが、当院では導入し良好な成績を得ております。進行癌の患者様に対しては、外科と連携を持ちながらの術前検査を施行しており、手術適応のない方には化学療法を専門的に行っています。炎症性腸疾患に対しては従来の治療に加え、クローン病に対しては抗TNF- α 抗体療法、潰瘍性大腸炎に対しては白血球除去療法などを行っています。

胃癌に対する内視鏡的粘膜下層剥離術(ESD)



- ①腫瘍を確実に切り取るために、腫瘍の周りに切所範囲のマーキングをします。
- ②腫瘍周囲および腫瘍の粘膜下層に局注液を注入し浮き上がらせます。
- ③マーキングした部分を取り残さないように周囲をカットしていきます。
- ④粘膜下層の層を筋層に平行に剥離して（削いで）いきます。
- ⑤切除完了です。出血および穿孔がないかをチェックします。



観察

マーキング

粘膜剥離中

切除終了

肝胆膵領域において肝臓ではC型肝炎に対するリバビリン併用インターフェロン療法、肝臓癌に対するラジオ波熱凝固療法、肝動脈塞栓術、胆膵系では超音波内視鏡を用いた胆膵腫瘍診断、閉塞性黄疸に対する内視鏡的経鼻胆道ドレーナージや、総胆管結石に対する内視鏡的乳頭切開術、結石除去、採石術、悪性腫瘍に対するステント留置などを中心に行っています。県内最大の感染症であるB型ウイルス性肝炎及びC型ウイルス性肝炎に対するインターフェロン治療が将来の肝硬変、肝がんの予防及び肝炎ウイルスの感染防止を図ることを目的として、平成20年度から7年間に限り、インターフェロン治療に係る医療費の助成制度が始まっております。当院は県指定肝疾患専門医療機関として多くの患者様のインターフェロン治療を行っております。肝臓癌に対するラジオ波熱凝固療法は、難易度が高い症例でも人工胸水・腹水法などを併用することにより良好な治療成績を得ております。現在、胆膵領域の質的精密検査として超音波内視鏡検査が重要な位置を占めますが、その難易度から導入している施設は長崎県では非常に限られております（2-3施設）。当院では小生赴任後の6月より適応症例に対しては積極的に検査を行い、診断に寄与しております。

内視鏡施設に関することとしては、これまでの前任者である木下秀樹医師、高森謙一医師の尽力により少しずつ整備されてきております。今年も最新内視鏡機器（内視鏡光源と大腸内視鏡）の導入が決まっております。さらに今後も整備を進め、常に最先端医療が提供できるよう努力して行く予定です。

④腎臓内科

新里健暁医師により診療を行っております。

腎臓病全般を対象として、近隣の医療機関との情報交換も密に行いながら地域に密着した診療（診断、治療）を行っております。尿に蛋白や血が混じる方の診断と治療のための腎生検を行っております。また腎不全の患者様に対する、人工透析療法や急性腎不全に対する血液浄化療法や血漿交換療法等の専門医療にも対応しております。さらに透析療法を受けられている患者様の長期透析合併症や種々の腎臓病以外の合併症にも、複数の科が協力して診療に当たっています。

⑤血液内科

鯉田智医師により診療を行っています。

白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫などの造血器悪性腫瘍や再生不良性貧血、特発性血小板減少性紫斑病などの血液難病が血液疾患の主なものです。治療は薬物療法が中心となります。抗癌剤治療や移植療法など、より高次医療が必要な疾患に対しては、長崎大学病院、長崎医療センターと連携をとりながら最適な医療を提供しております。

⑥総合診療科

龍田洋一医師により診療を行っています。

総合診療とは、人々が日々の暮らしの中で直面するさまざまな健康上の心配事について、患者さんの視点に立って総合的に問題解決を図ろうとする医師の立場を指しています。従来臓器別専門医と異なり、特定の臓器や疾患にこだわらず幅広い診療を行うのが総合診療医の特徴といえます。また心療内科的診療も行っています。9月からは小児科を担当しています。

以上が各専門別の内科紹介となります。現在、後期臨床研修医として中尾美也子先生が日々研鑽を積んでおられます。多くの症例診療を担っていただいています。また離島医療研究所・前田隆浩教授には毎週火曜日に内科新患外来を担当していただいています。前田教授は血液内科および総合診療科のスペシャリストとしての力を存分に発揮していただき、当内科のアドバイザー的役割も担っていただいております。

内科は多くの患者様に接する機会が多い診療科であり、内科が充実しない総合病院は現在社会が求める医療水準を維持することができないと考えます。また、1人の患者様に対して、主治医は多くの専門医の意見を聞きながら診療をするいわゆるチーム医療を行い、常に向上心を持ちながら診療にあたっていきます。お気づきの点がございましたらご指摘くだされば幸いです。今後ともよろしく願いいたします。

.....

患者様の間違いがありますので、誤認防止のために名前を確認させていただきます。(外来)

.....

次号では放射線科と外科の紹介をします。

長崎県離島医療圏組合五島中央病院

長崎県五島市吉久木町205番地
電話：0959-72-3181
FAX：0959-72-2881
メール：gobyu2@fctv-net.jp
<http://www.gotocyuoh-hospital.jp/>